



2026 年 8 月 14 日

各 位

会 社 名 コ ム チ ュ ア 株 式 会 社
東京都品川区大崎一丁目 11 番 2 号
代表者名 代表取締役 社長執行役員 亀 井 貴 裕
(コード番号：3 8 4 4 プライム市場)
問合せ先 常務執行役員
エンタープライズコンサル 川 地 康 彦
ティング事業部長
T e l : 0 3 - 5 7 4 5 - 9 7 0 0

AI プラットフォーム「Krugle」のクリューグル社との業務提携を締結

～ 日本企業のレガシーシステム刷新と伴走支援型モデルへの転換を加速 ～

コムチュア株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役 社長執行役員：亀井 貴裕、以下 コムチュア）と、クリューグル株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：川北 潤、以下 クリューグル）は、企業のソフトウェア資産およびナレッジ資産の AI 活用を支援する分野において、業務提携契約を締結しました。

本提携により、コムチュアはクリューグルが提供する AI プラットフォーム「Krugle」を活用し、レガシーシステムの開発・保守を起点とした伴走支援型サービスを新たに立ち上げます。あわせて、製造業の暗黙知や教育コンテンツのナレッジ化など、業種・業務に特化したサービスアセットの共同開発も進めてまいります。

1. 背景 — AI の活用が進むほど、「既存資産の整備」の価値が高まる

企業の AI 活用は PoC の段階を越え、業務への実装フェーズへ移行しています。一方で、多くの企業では AI が成果を出すための前提となる「データと既存システムの整備」が追いついていません。

とりわけ、長年にわたり改修が重ねられたレガシーシステムは、仕様がブラックボックス化し、担当者の異動・退職によって維持そのものが困難になりつつあります。また、製造業の設計ノウハウや現場の判断基準といった知見の多くは、Excel や設計書などの非構造化データとして分散しており、従来の AI では活用が困難でした。

AI 時代においてシステムインテグレーター（SIer）に求められる役割は、画面や機能を「作ること」から、お客様の業務とデータを AI が働ける状態へ整え、成果が出るまで伴走することへと移りつつあります。コムチュアは、この領域こそが今後の成長機会であると捉えています。

2. Krugle プラットフォームについて

「Krugle」は、クリューグルが米国 Archaea AI, Inc.と共同開発する、ソフトウェア資産およびナレッジ資産の整備・活用を支援する AI プラットフォームです。

(1) 既存資産をそのまま活用

既存リポジトリからソースコードを移動させることなくクローリング・構文解析し、横断的なセマンティック検索を実現します。

(2) 非構造化データのナレッジ化 (Krugle Biblio)

Excel・PDF・設計書など、従来 AI での読解が難しかったファイルを独自の前処理により RAG 化し、ソースコードと周辺ドキュメントを横断的に関連付けます。

(3) AI エージェントによる業務遂行 (Krugle Squad)

業務ノウハウを「スキル」として資産化し、AI エージェントが情報収集から成果物作成までを自律的に実行します。

(4) プライベート環境での完結も可能

コード特化型の軽量 LLM を自社環境内で稼働させる設計により、機密情報の外部送信を伴わず、AI 利用コストも抑制します。

コムチュアは、レガシーシステムの分析と非構造化データの活用という日本企業固有の課題に正面から向き合う設計思想、およびセキュリティ要件の厳しいお客様にも提案可能な構成を高く評価し、本領域における最適なパートナーであると判断しました。

3. 業務提携の内容

両社は、以下の領域で協業を開始します。

(1) レガシーシステムの開発保守サービスの共同展開

「Krugle」を活用し、既存システムの可視化・影響調査・ドキュメント整備を高度化した保守運用サービスを整備します。コムチュアが有するマルチベンダー対応のエンジニアリング体制と「Krugle」を組み合わせ、お客様の運用負荷とリスクの低減を支援します。

(2) 継続的な支援関係を起点とした Data & AI 活用への発展

保守運用を通じてお客様の業務とシステムを深く理解する体制を構築し、そこを起点にデータ基盤の整備、AI 活用の企画・実装・定着までを継続的にご支援します。

(3) 業務・業種特化アセットの共同開発

「製造業における暗黙知のデータ整備と活用」「人材育成業務におけるコンテンツ・ノウハウの整備と活用」など、業種・業務に特化した再利用可能なサービスアセットの共同開発を進めます。コムチュアグループが有する教育事業の知見も活用し、「Krugle」の適用領域をソフトウェア開発・保守から企業活動全般へと拡張してまいります。

4. 中期経営計画との連動 ― 「Data & AI へのシフト」の具体化

コムチュアは、2026年8月14日に公表した中期経営計画（2027年3月期～2029年3月期）において、「Data & AI FIRST」および「カスタマーサクセス」を重点テーマに掲げ、ビジネスモデルの変革を推進します。

本提携は、同計画に掲げる以下の施策を具体化する取り組みと位置づけています。

中期経営計画における方針	本提携による具体化
提供サービスを、個別要件に基づくアプリ開発から、Data & AI・SaaS連携領域を含む課題解決型ソリューションへ拡大	既存システムとデータの整備を起点としたサービスの新設
お客様との関係を、プロジェクト単位の取引から運用・保守・データ活用支援による伴走体制へ転換	保守運用を起点とした継続的支援関係の構築
案件知見を業務・業種特化アセットとして横展開	製造業・人材育成領域での共同アセット開発
オーガニック成長に加え、業務提携・資本提携・M&Aを積極活用しData & AI領域の基盤を拡充	本業務提携の締結

成長ドライバーを従来の「人数 × 稼働率」から「AI活用 × 伴走力」へ転換する。

本提携は、その実現に向けた最初の一步です。

5. 今後の展望

コムチュアは、クリューグルとの間で、共同サービスの拡充とあわせ、資本提携を含むより強固な関係構築についても検討を進めてまいります。

AI時代の事業環境変化は、当社グループにとって既存事業の縮小リスクであると同時に、お客様の業務変革を支える新たな成長機会でもあります。オーガニックの自力成長に加え、本件のような業務提携・資本提携、さらにはM&Aも積極的に活用し、Data & AI領域における人材・サービス・顧客基盤の拡充を加速してまいります。

なお、本業務提携が今期の当社連結業績に与える影響は軽微ですが、今後開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。

6. コムチュア株式会社 代表取締役 社長執行役員 亀井 貴裕 コメント

AIによって開発そのものは容易になる一方、お客様の業務に根ざしたデータやノウハウを整え、成果につなげる仕事はむしろ重みを増しています。当社は、画面や機能を作るシステムインテグレーターから、データとAIを起点にお客様の業務変革に伴走するパートナーへと、事業のあり方そのものを変えてまいります。「Krugle」は、日本企業が長年抱えてきた課題に真正面から取り組むプラットフォームであり、その理念に深く共感しました。両社の力を合わせ、お客様に確かな成果をお届けしてまいります。

7. クリューグル株式会社 代表取締役社長 川北 潤 コメント

クリューグルはこれまで、製造業の匠技術の継承やレガシーシステム対策といった日本の深刻な課題を解決すべく、日本市場にコミットした開発を進めてまいりました。当社の「Krugle」は、海外クラウド AI ベンダーのトークン課金モデルとは一線を画し、AI 利用をローカルで実現しコストを抑える実践的なプラットフォームです。この度、確固たる事業基盤と優れた SI・教育ノウハウを持つコムチュアと「日本企業の Data&AI 活用」支援に向けた包括的な提携を実現できたことを大変光栄に思います。両社で AI 時代の日本経済の成長の一端を担えるように、チーム一丸となって邁進してまいります。

以上

■関連 Web サイト

[AI で変えるレガシーシステム保守運用](#)

<本件に関するお問い合わせ>

コムチュア株式会社

エンタープライズコンサルティング事業部

ビジネスソリューションデリバリー本部

担当：勝又 康

E-mail : katsumata_yasushi@comture.com